

【研究名】：有害事象事例に対する未知の医薬品相互作用の探索

【研究目的】

病院の薬剤師は、業務の一環として、入院されている患者さんの副作用報告を行っています。また、収集された副作用について医薬品が原因であるかどうか解析を行っています。しかし、副作用はひとつの薬で起きることもありますが、2種類以上の薬を一緒に使用することで起こることもあります。これを、医薬品の相互作用といいます。「薬の飲み合わせが良くない」という言い方をされることもあります。

これまでに、副作用を起こす可能性がある組み合わせは多く知られていますが、まだ知られていない相互作用もあるのではないかと考えています。そこで、発生した副作用事例について相互作用の可能性のある事例を探索し、その原因について検討します。

【研究意義】

医薬品の相互作用による副作用発現の防止および薬剤適正使用への貢献が期待できます。

【調査の対象となる患者さん】

2014年6月1日～2015年12月31日の間に当院で副作用が報告された患者さん

【方法】

調査の対象となる患者さんのカルテから、以下の項目を調べます。

性別、年齢、処方歴、医薬品の血中濃度、有害事象報告事例、副作用歴

【研究実施期間】

2016年3月～2016年12月

【患者さんの個人情報の管理について】

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの個人情報が外部に漏れることはありません。

【研究実施体制】

研究機関： 愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者： 教授 荒木 博陽

研究分担者： 准教授 田中 亮裕

副部長 守口 淑秀

副部長 田中 守

主任 内舩 健

薬剤師 大島 幹弘

薬剤師 橋本 麻央
松山大学薬学部
准教授 畑 晶之
准教授 山内 行玄
講師 高取 真吾
武内 右貴

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いてほしいという方は、下記の連絡先までお申し出ください。

また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は下記の連絡先まで連絡をお願いします。

研究責任者： 准教授 田中 亮裕
電話番号： 089-960-5731
e-mail: akiki@m.ehime-u.ac.jp

【本研究の結果】

薬物間相互作用でトピラマートの血中濃度が増加したと思われる1例があり、DIPS (Drug Interaction Probability Scale) を用いて評価を行った結果、スコアから相互作用が有害事象の原因である可能性有と評価できた。なお、本研究の成果は第2回日本医薬品安全性学会学術大会で発表した。